日本共産党
流山深井後援会

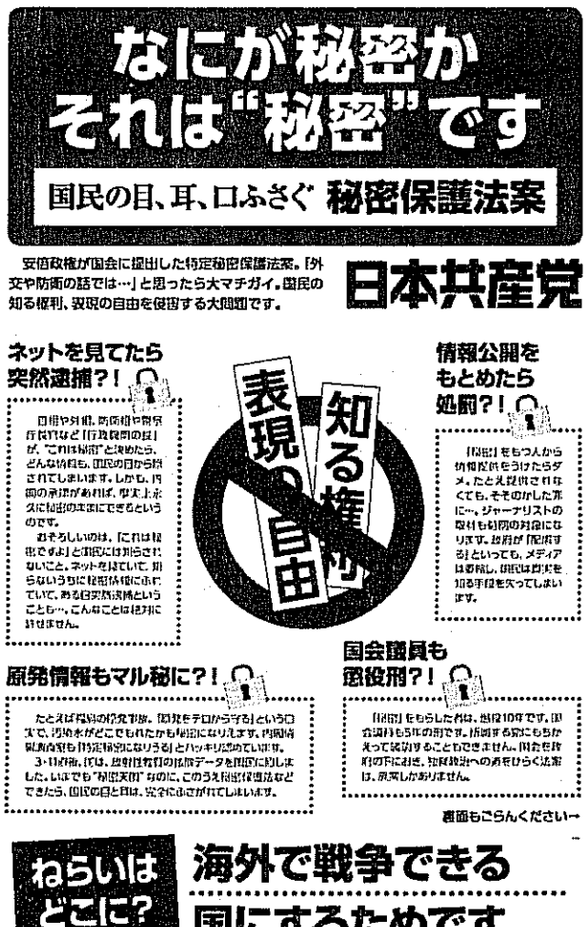
ニュースあすなろ

13年11月15日
第177号
発行責任者
菊池 伍郎
TEL/FAX
7154−0526
（部内資料）

反対世論を急速に高め廃案に！　日本共産党が署名呼びかけ

「秘密保護法がこのまま通るのは国民としていかがなものかと心配ー」女優の藤原紀香さんはじめ、各界の幅広い方が「反対」の声をあげています。

日本共産党のホームページからダウンロードして掲載しました。知らなかったで済まない大問題です！



9月議会報告会　対決・対案・共同の成果

11月3日（日）北部公民館で植田和子議会報告会が行われました。

体調不良で欠席の植田議員に代わり、日本共産党植田忠義流山市委員長が、流山市の9月議会に日本共産党はどのような位置付けで臨んだかについて発言しました。

参議院選挙の三つのキーワードは「①安倍内閣の暴走政治と正面から**対決**する。②対決だけではなく**対案**を示す。③要求の一致で広く国民の皆さんと**共同**の運動を発展させる」でした。

その後の国民運動のなかでも一貫してこの立場で取り組んできました。

小中併設校など進め方に問題

9月議会でもこの三つのキーワードを生かして大変重要で貴重な成果をあげることができました。

その一つは小中併設校と体育館の建て替えに約200億円の事業で100億円の赤字をつくることが明らかになったことです。これを追及し見直しや対案を市議団として提起しました。そのなかで初めて副市長から「小中併設校については反省すべき点もある」と述べ、他党派も「小中併設校の進め方には問題がある」と発言をし始めました。

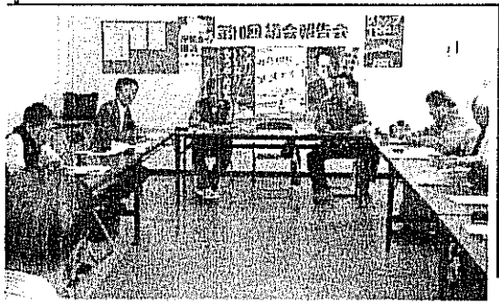
また、国も流山も公務員を減らしてきました。昨年、政府から公務員の給与引き下げの要請があったときに千葉県下でそれに反対した四つの自治体の一つが流山でした。

9月議会で公務員の「人員削減」をすすめることにはふれないことに変わりました。

老朽校舎改修で一致

共同という点では。流山では巨大な金を使って併設校を作るということと対照的に古い学校が建て替えされず現存しています。一番古いのは江戸川台小学校で築54年。トイレは和式。植田議員は教育福祉委員として委員会でも本会議でも追及し、その結果、全会派一致で市内の老朽校舎や小中学校の実態調査を教育福祉委員会でやることになりました。もちろん、議会の前に共産党として独自に実態調査をしました。そのなかで、特に江戸川台小学校のトイレ改修は早期にすすめるということが全会派の要求として当局に迫ることを確認しました。この点で他会派とは一点共闘するという前進がありました。

植田議員は、教育福祉委員としての行政視察に



原発から撤退　今は原発ゼロ!!

こんにちは　植田和子です

10月20日今日は、大雨の中、ケーキ販売・焼きそば販売、大変お疲れ様でした。どうか、風邪など引かないでください。

11月6日今日は、午後1時から5時まで広報広聴特別委員会が、明日は、朝9時に控え室集合で、会派ごとに市長との予算要望の懇談会です。日曜日の市議会の議会報告会では、私が説明員になっているので、その打ち合わせが明日か、金曜日にあります。またまた議員団会議が延びてて、やっと、11日の月曜日に、2週間ぶりに4人揃って滋賀の大津市（いじめ問題）・京都の八幡市（生活保護問題）・大阪の池田市（小中一貫校問題）に出かけました。議員として初めての経験で苦労もありましたが、今後の議員活動に生かせます。

国政の問題では、いまの安倍内閣は私たちの予想を超えた大変な暴走内閣です。国会内では真に自民党と対決できる政党は日本共産党以外にありません。秘密保護法、社会保障制度の大改悪など至急に大運動を起こす必要があります。

と、市委員長は発言をしました。

11月15日お疲れ様です。みなさん、突然ですが、朗報です。私が議員になって、初めての一般質問で取り上げさせてもらった危険な通学路（富士見台と江戸川台西4丁目）の信号のない交差点に、ナントナント、**信号機が設置**されました。見たときは、目を疑いました。びっくりです。「使用開始は、来月上旬から」とのことです。みなさんの願い、また1つ実現しました。

防災無線など災害対策に不安

参加者からは、台風の大雨の時「下水を流さないで」というメールをもらえてよかった。植田議員に感謝してます。また、防災無線が聞こえなかった。何かと思って窓を開けたらもう聞こえなかった。下水対策早く。市の防災訓練に自衛隊を呼ぶという広報をみて、どこの部隊なのか聞くと、松戸からという。地震の時に松戸から来れるのか？と疑問を投げかけた話なども紹介されました。他にも多くの発言、や意見提案がありました。

ヘッドライト

小泉純一郎氏がなぜか元気だ。「原発ゼロを目指す」といい、安倍首相にも説教した。息子の存在感を高める狙いでもあるのかとかんぐる向きもある。「自民党をぶっ壊す」とぶち上げて人気を博し、その自民党を牽いて郵政民営化を強引に進め、医療や福祉を「ぶっ壊し」たのは彼だ。そして新自由主義で競争社会を過熱化させ格差を拡大しただけでなく、首相として原発を推進してきたのも事実だ▼そんな彼が総理を辞めたからといって気楽に人気取りで原発ゼロを唱えるのではと嫌悪感を抱く人も多い。たしかに拍手を送る気にはなれないが、主張は間違っているわけではない。そして自ら原発推進が間違っていたと率直に認めている。ただし「過ちを改めて何が悪い」と開き直るところが彼らしい▼ところがそこに細川護熙氏まで加わるとますます複雑な思いだ。彼も首相として米の自由化に先鞭をつけ、小選挙区制を導入し、政党助成金を始めるなど大きく日本の政治を歪めた。だがそれでも脱原発は彼らとも一緒に実現しなければならないほど深刻だ。昔の村八分でも火事と葬式は一緒に協力したという。